

横芝光町の統一的な基準による財務書類（令和4年度 一般会計等）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）			負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固 定 資 産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	128億3,754万円	1 固 定 負 債	(1) 地方債	86億9,182万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	150億4,916万円		(2) 退職手当引当金	13億1,217万円
	(3)物品、ソフトウェアなど	3億6,752万円		(3) その他の固定負債	3,060万円
	(4)投資その他の資産	56億6,883万円	2 流 動 負 債	(1) 賞与等引当金	1億592万円
2 流 動 資 産	(1) 現金預金	5億4,254万円		(2) その他の流動負債	12億8,623万円
	(2) 基金、未収金など	20億1,130万円	負債合計		114億2,675万円
資産合計		364億7,689万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
			純資産合計		250億5,014万円
			負債及び純資産合計		364億7,689万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）		5億1,664万円
本年度資金収支額		△7,514万円
1	業務活動収支 収、国県等補助金、人件費など	13億5,304万円
	2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△7億3,329万円
3	財務活動収支 地方債等発行、償還など	△6億9,489万円
	本年度末歳計外現金残高（預り金）	1億104万円
本年度末現金預金残高		5億4,254万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	250億9,286万円
本年度変動高	△4,273万円
△純行政コスト	△97億9,009万円
財源 （町税、地方交付税、 国・県補助金）	97億3,526万円
資産形成への充当	8,407万円万円
その他	2,803万円万円
本年度末純資産残高	250億5,014万円

町の資産と負債の状況

- ①住民 1 人当たりの資産と負債残高（令和5年3月31日現在人口 22,548 人）
資産 = 162万円 負債 = 51万円
- ②純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 68.7%
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- ③資産老朽化比率（資産の老朽割合）・・・・・・ 67.8%
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※ 令和4年度末現在：償却資産取得価額等： 687億5,413万円 減価償却累計額： 466億4,530万円
- ④負債比率（純資産に対する負債の割合）・・・・・・ 45.6%
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和4年度財政運営の総括

- ①業務活動収支 13億5,304万円 ⇒ 堅調な財政運営
②投資活動収支 △7億3,329万円（基金積立、資産形成）
③財務活動収支 △6億9,489万円（将来世代の負担）
①～③の合計である令和4年度の資金収支は △7,514万円
- 前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 5億4,254万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	114億5,299万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	16億4,000万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	41億5,784万円
その他の業務費用 支払利息など	1億2,864万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	55億2,651万円
経常収益	20億2,443万円
純経常行政コスト （経常費用－経常収益）	94億2,855万円
臨時損失 災害復旧費など	3億6,499万円
臨時利益 資産売却益など	346万円
純行政コスト （純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益）	97億9,009万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和4年度）

	横芝光町	早期健全化基準
実質赤字比率（％）	－	14.11
連結実質赤字比率（％）	－	19.11
実質公債費比率（％）	5.2	25.00
将来負担比率（％）	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

横芝光町の統一的な基準による財務書類（令和4年度 全体会計）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）			負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固 定 資 産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	151億9,287万円	1 固 定 負 債	(1) 地方債	90億1,311万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	158億5,438万円		(2) 退職手当引当金	13億5,789万円
	(3)物品、ソフトウェアなど	10億2,916万円		(3) その他の固定負債	11億2,966万円
	(4)投資その他の資産	45億5,303万円	2 流 動 負 債	(1) 賞与等引当金	1億6,380万円
2 流 動 資 産	(1) 現金預金	10億3,061万円		(2) その他の流動負債	14億8,761万円
	(2) 基金、未収金など	25億883万円	負債合計		
資産合計			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
			純資産合計		
			負債及び純資産合計		
			401億6,888万円		

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）		8億8,631万円
本年度資金収支額		4,325万円
1 業 務 活 動 収 支	税金、国県等補助金、人件費など	15億6,382万円
	公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△7億5,098万円
2 投 資 活 動 収 支	地方債等発行、償還など	△7億6,958万円
	地方債等発行、償還など	△7億6,958万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）		1億104万円
本年度末現金預金残高		10億3,061万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	267億2,603万円
本年度変動高	2億9,077万円
△純行政コスト	△142億1,450万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	145億4,715万円
資産形成への充当	8,407万円万円
その他	6,505万円万円
本年度末純資産残高	270億1,680万円

町の資産と負債の状況

- ①住民 1 人当たりの資産と負債残高（令和5年3月31日現在人口 22,548 人）
資産 = 178万円 負債 = 58万円
- ②純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 67.3%
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- ③資産老朽化比率（資産の老朽割合）・・・・・・ 66.9%
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※ 令和4年度末現在：償却資産取得価額等： 776億5,633万円 減価償却累計額： 519億5,937万円
- ④負債比率（純資産に対する負債の割合）・・・・・・ 48.7%
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和4年度財政運営の総括

- ①業務活動収支 15億6,382万円 ⇒ 堅調な財政運営
②投資活動収支 △7億5,098万円 （基金積立、資産形成）
③財務活動収支 △7億6,958万円 （将来世代の負担）
①～③の合計である令和4年度の資金収支は 4,325万円
- 前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 10億3,061万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	175億4,175万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	26億485万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	51億3,561万円
その他の業務費用 支払利息など	2億6,446万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	95億3,683万円
経常収益	32億2,736万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	143億1,439万円
臨時損失 災害復旧費など	157万円
臨時利益 資産売却益など	1億146万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	142億1,450万円

- 4つの財務書類の公表について
町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。
- 財務書類作成に当たって（効果）
今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和4年度）

	横芝光町	早期健全化基準
実質赤字比率（％）	－	14.11
連結実質赤字比率（％）	－	19.11
実質公債費比率（％）	5.2	25.00
将来負担比率（％）	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

横芝光町の統一的な基準による財務書類（令和4年度 連結会計）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）			負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固 定 資 産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	177億2,817万円	1 固 定 負 債	(1) 地方債	99億7,617万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	203億622万円		(2) 退職手当引当金	18億5,804万円
	(3)物品、ソフトウェアなど	29億4,714万円		(3) その他の固定負債	29億1,436万円
	(4)投資その他の資産	47億7,266万円	2 流 動 負 債	(1) 賞与等引当金	2億1,112万円
2 流 動 資 産	(1) 現金預金	21億5,089万円		(2) その他の流動負債	18億792万円
	(2) 基金、未収金など	27億5,978万円	負債合計		
資産合計			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
			純資産合計		
			負債及び純資産合計		

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）		21億643万円
本年度資金収支額		741万円
1	業務活動収支	20億3,127万円
	税金、国県等補助金、人件費など	
2	投資活動収支	△14億9,938万円
	公共施設等整備費支出、国県等補助金など	
3	財務活動収支	△5億2,447万円
	地方債等発行、償還など	
本年度末歳計外現金残高（預り金）		1億209万円
本年度末現金預金残高		21億5,089万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	337億6,924万円
本年度変動高	1億2,802万円
△純行政コスト	△163億7,592万円
財源	
（町税、地方交付税、国・県補助金）	166億6,170万円
資産形成への充当	7,709万円
その他	6,515万円
本年度末純資産残高	338億9,726万円

町の資産と負債の状況

- ①住民1人当たりの資産と負債残高（令和5年3月31日現在人口 22,548 人）
資産 = 225万円 負債 = 74万円
- ②純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 67.0%
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- ③資産老朽化比率（資産の老朽割合）・・・・・・ 65.5%
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※ 令和4年度末現在：償却資産取得価額等： 931億8,399万円 減価償却累計額： 610億5,528万円
- ④負債比率（純資産に対する負債の割合）・・・・・・ 49.3%
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和4年度財政運営の総括

- ①業務活動収支 20億3,127万円 ⇒ 堅調な財政運営
②投資活動収支 △14億9,938万円 （基金積立、資産形成）
③財務活動収支 △5億2,447万円 （将来世代の負担）
①～③の合計である令和4年度の資金収支は 741万円
- 前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 21億5,089万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	204億9,111万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	32億9,724万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	64億4,053万円
その他の業務費用 支払利息など	3億3,840万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	104億1,494万円
経常収益	41億1,072万円
純経常行政コスト （経常費用－経常収益）	163億8,040万円
臨時損失 災害復旧費など	2,327万円
臨時利益 資産売却益など	2,775万円
純行政コスト （純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益）	163億7,592万円

- 4つの財務書類の公表について
町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。
- 財務書類作成に当たって（効果）
今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和4年度）

	横芝光町	早期健全化基準
実質赤字比率（％）	－	14.11
連結実質赤字比率（％）	－	19.11
実質公債費比率（％）	5.2	25.00
将来負担比率（％）	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

横芝光町の財務書類分析（指標）

指標一覧（一般会計等）

純資産比率

指標名	計算式	R3年度	R4年度	前年比
純資産比率	純資産合計額÷資産合計額×100	66.8%	68.7%	1.9%

住民一人当たりの資産額

指標名	計算式	R3年度	R4年度	前年比
住民一人当たりの資産額	資産合計額÷人口	163万円	162万円	-0.6%

住民一人当たり負債額

指標名	計算式	R2年度	R3年度	前年比
住民一人当たりの負債額	負債合計額÷人口	54万円	51万円	△5.6%

資産老朽化比率

指標名	計算式	R3年度	R4年度	前年比
資産老朽化比率 （有形固定資産減価償却率）	減価償却累計額÷取得価格等×100	66.3%	67.8%	1.5%

住民一人当たり行政コスト

指標名	計算式	R3年度	R4年度	前年比
住民一人当たり行政コスト	純経常行政コスト÷人口	42万円	43万円	2.4%

受益者負担割合

指標名	計算式	R3年度	R4年度	前年比
受益者負担割合	経常収益÷経常費用	16.5%	17.7%	1.2%